

エネルギーは資源を消費して作るが資源という原材料を
エネルギーに加工していると考えれば生産といえる
(再生可能エネルギーの場合は資源の消費ではなく生産である)
自然環境的には消費だが人間活動としては生産

・「エネキ」は、 $\frac{1}{2}$ より大きいものではないが、 $\frac{1}{2}$ に全 $\frac{1}{2}$ に近い。

二社会一の「実在」の方向。

存在

二社会一

∨

物理的の存在点から、現在存在、それ/使われ/ない時。

存在する { 物から/他の物 } の変換 ~~不可~~ ~~可能~~ 又は
形態から他の形態

社会一の差 ($E = mc^2$ による質量差による二社会一差) がある。

~~和~~

結論、二社会一は「実在」の方向に存在、存在する二社会一は

「変換」が可能。

エネルギーの形態を変えて抽出することは可能だが生産は実現されていない。

エネルギーは生産できる。

理由 人間の働きにより生み出すことができる。

エネルギーは生産できるか

できない

行っているのはエネルギーの変換だけであり、元々のエネルギーに匹敵する量のエネルギーを生み出すことは物理的に不可能

(エネルギーの変換を生産と捉えるなら可能だが)

エネルギーが消費者のニーズであれば
生産は可能だが限りがある。

しかし、エネルギーを変換し、その商品が消費者のニーズである
ならば、生産はいくらでもできる。

「エネ」は生産しているか
を主として、エネには石油など
実体を切ってもある。

エネルギーがどういう意味が分からなくなっていた。

エネルギーは量度できるか？

世の中のエネルギーの総量は(ほとんど)へたりにしてないので定まらない。

エネルギーは「生産」でまかな

でまる。

エネルギーは「生産」できるのか？

A、全宇宙^{に対する}のエネルギーに対してはエネルギーは保存されるので「生産」できない。一定になる

地球^{に対する}エネルギーに対しては太陽からの光による発電や、熱などを利用することによってエネルギーを「産」
できる。

増やすことができる。

。エネルギーは“生産”できるのか？

できない。エネルギー保存則より、この世界のエネルギー量は一定。
人間はエネルギーを自らが使わせやすい形に直すことはできても
“生産”することはできない。

エナジー (はた ~~た~~ い) にか。

てきな ~~か~~

エナジーと異なる物にかえることはできず、性質が異なることは
てきなと思ふ。

エネルギーは生産できるか？

。エネルギー保存の法則があるので

当然、無から生み出すことはできない。

それは物質的何ものの生産でも同じこと。

。物質の生産と同じように

材料を変形して

使いやすい形態にすることも生産と呼ばれるだろう。

したがってそのままでは使いづらい

熱エネルギーを電気エネルギーとすることはなどは

充分生産と呼ばれるのではなないだろうか。

エネルギーは生産できるか？

エネルギーの実際的な量は増やせない。

エネルギーの価値を増減させることはできる。

できない。

(光, 波, 熱, 電気...)

理由: エネルギーは状態を変えているだけで、
新たに生まれているわけではない。
発電所も、自然からエネルギーを
取り出しているだけ。

エネルギーは生産できるか、

生産可能である。

例えば熱機関を動かすとき、熱エネルギーを消費して仕事をしている。エネルギーが消費されることで入っていくのよ
うは、増える場合は生産しているということである。